

令和4年度 笛吹市におけるスポーツ振興事業について

教育委員会 生涯学習課

令和3年9月に策定した笛吹市スポーツ推進計画では、『スポーツで育む「こころ」と「からだ」笑顔あふれる笛吹市』を基本理念に掲げ、市民誰もがスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことに携わり、生涯にわたって心身ともに健康な生活を営み、笑顔があふれる心豊かな暮らしの実現を目指すこととしている。

【令和4年度重点事業】

1.スポーツ振興事業

(1)ランクリニック **する**

市とヴァンフォーレ甲府が協力し、小学生を対象に走り方に特化した講習(ランクリニック)として、初めて行う事業。

6校で実施し、約200人の生徒が参加した。

(2)ボールゲームフェスタ **する**

JTL(日本トップリーグ連携機構)に所属している若しくは所属していたトップアスリートにより、ボールを使う運動の楽しさや技術を指導する事業である。

昨年度から始めた事業で、今年度もスポーツ推進委員の皆さまの協力を得て、ふえふき文化・スポーツ振興財団と共に10月15日(土)に実施した。

なお、運動の内容は次のとおり。

ア.午前中「あそびバ」(アンバサダー1人、講師2人)(親子43組参加)

幼稚園から小学校低学年の親子を対象に、ボールを使ったメニューを中心に、様々な運動や遊びの中で手足を使い基礎的な運動能力のアップを図った(親子等43組参加)。

イ.午後「キッズチャレンジ」(アンバサダー1人、講師8人)(39人参加)

小学校高学年を対象に、ボールを使用する4競技(バスケットボール・バレーボール・サッカー・ラグビー)の選手達の指導のもと、複数種目を体験し、普段と違う動きをすることで、子供の運動能力の向上を図った。

(3)笛吹市スポーツ講演会 **みる**

笛吹市民の誰もがスポーツに親しみ、気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを目指し世界や全国で活躍するアスリート等による講演会及び講習会を開催する。

ふえふき文化・スポーツ振興財団へ補助を行い、今年度は、10月15日(土)に、サッカー日本代表としてアテネオリンピック、FIFAワールドカップ南アフリカ大会、同ブラジル大会などに出場、J1リーグ最多得点記録保持者である大久保嘉人氏による講演会を開催した(参加者約400人)。

(4)JFA こころのプロジェクト 夢の教室事業 **ささえる**

日本サッカー協会(JFA)が掲げているスローガン「DREAM～夢があるから強くなる」のもと、『夢』をテーマに、サッカー界だけでなく他スポーツや他ジャンルの方々の協力を得ながら、子どもたちの心身の健全な発達に貢献していく「JFA こころのプロジェクト「夢の教室」」を平成19年度からスタートさせた。本事業は、昨年度はオンラインで開催したが、今年度は対面形式で、1月12日(木)に一宮北小5年生、2月2日(木)に石和南小5年生を対象に行う予定。

内容は次のとおり。

ア.ゲームの時間

仲間と協力する事の大切さや相手を思いやる心などを育む。

イ.トークの時間

ユメ先生の体験談をもとに、夢を持つことの素晴らしさや夢に向かって努力することの大事さを学ぶ。

ウ.夢シート

子どもたちが作成した夢シートを先生に送付し、先生から一人ひとりに向けたメッセージとサインを子どもたちへ届ける。

(5)ACP(アクティブチャイルドプログラム) **する** **ささえる**

市内スポーツ指導者や先生を対象に ACP を熟知した講師による研修を行う。これにより指導のスキルを身に付けてもらい、運動の苦手な子供たちに、体の動かし方のコツをつかめば苦手な運動でもできることを知ってもらうことや、運動の楽しさを知ることにより積極的に運動に取り組むきっかけとなることを目指す。

ACP は、市として初めて行うものであり、12月4日(日)に実施する予定。

2.屋外体育施設夜間照明設備更新事業 **ささえる**

夜間照明に使われている水銀灯が令和3年に生産中止となったことにより、グラウンド、テニスコート及び学校校庭の夜間照明の LED 化を一括で施工できるリース方式で行っている。

今年度6月から工事を開始し、現在までに27施設中24施設の更新を行った。11月末までには工事が全て完了し、年度内に施設を使用する各団体と明るさの調整を行い、令和5年度から10年間のリースを開始する予定である。

なお、リース事業にはリース物件の管理や不具合の際の対応も含まれる。

【その他主要なイベント等】

1. 桃の里マラソン大会及び桃源郷春まつり全国ゲートボール大会 する ささえる

令和4年4月に実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止。令和5年度は実施に向けて、それぞれの実行委員会で検討する。

2. 全国体力・運動能力調査 ささえる

全国体力・運動能力調査は毎年実施し、本市においては9月15日(木)の夜と10月2日(日)の昼に開催した。内容は次のとおり。

(1)20歳～64歳を対象

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳

(2)65歳～79歳を対象

握力、上体起こし、長座体前屈、開眼片足立ち、10m障害物歩行、6分間歩行

3. スポーツ推進委員関連事業 する ささえる

市のスポーツ推進委員は、社会的信望があり、スポーツに関する深い関心と理解を有している市民の代表として、令和4～5年度は71人に委嘱している。

スポーツ推進のための事業実施に係る連絡調整並びに市民に対するスポーツの実技の指導、助言を行うこととして、先述のボールゲームフェスタや体力・運動能力調査等を含め、様々なスポーツイベントへの協力を得ている。

スポーツ推進委員が主体となる、今年度の活動は次のとおり。

- ・5月15日(日) ふえふきマルシェ会場で1回目の「スポーツフェスティバル」
- ・11月6日(日) 川中島の合戦会場で「甲斐サミット」(県内一斉)
- ・11月27日(日) 山梨県森林公園 金川の森で「市民ウォーク」
- ・2月19日(日) ふえふきマルシェ会場で2回目の「スポーツフェスティバル」

【今後想定される重要な事業等】

◇体育施設長寿命化・耐震化に伴う改修 ささえる

「春日居郷土館を拠点とした郷土学習環境の整備と学校連携」

教育委員会文化財課

《春日居郷土館の取組》

春日居郷土館をはじめとする市内文化施設では、「笛吹市教育大綱基本目標 7 豊かな心と郷土愛を育む芸術文化の振興」に記す芸術や文化、歴史の香り高い地域づくりを推進するための施設として、地域の芸術文化、歴史を紹介する展示や資料保存、学習機会の提供に取り組んでいます。

【郷土学習の必要性】

①郷土の歴史や文化を知る

例 1) 金川の堤防の歴史を調べる

例 2) 市内を通る古道がもたらした文化について調べる

②地域に誇りと愛着を持つ

例 1) 郷土の画家の作品を鑑賞する

例 2) 小川正子女医の功績を学ぶ

③観光資源の掘り起こし

例 1) 郷土にあるモノを調べる⇒何気なく見ているものが実はココニシカナイモノであったと気づく⇒みんなで情報発信の方法を考える⇒新たな観光資源に・・・

【春日居郷土館がやってきたこと】

①展示

- ・歴史展示
- ・わが町の八月十五日展
- ・笛吹市所蔵美術品展
- ・津田青楓展
- ・小川正子記念館関連展示

②市民ギャラリー

- ・ちぎり絵展
- ・写真展
- ・絵画展 など



わが町の八月十五日展

③講演会、公演等（会場はあぐり情報ステーション）

- ・八月十五日展かたりべの会、ハンセン病関連映画上映会、各種講演会の開催



小川正子記念館



ハンセン病に関する講演会

【春日居郷土館がこれからも取り組むこと】

①展示、収蔵品の公開

- ・展示解説、ギャラリートーク、収蔵庫ツアー等

②郷土学習教材の作成と講座等の開催

- ・エリアマップ、ミニガイドブックの作成
- ・史跡めぐり、古道めぐり、講演会、上映会等の開催

③展示品や収蔵品を使った学習機会の提供

- ・模写会、鑑賞文展、土器復元体験等
- ・学芸員による展示品や収蔵品の解説、
- ・「出前授業「土器を持って学校に行きます」

④収蔵品の保存、継承

《文化施設のかかえる課題》

①入館者の減少

- ・春日居郷土館の入館者推移

平成30年度 2,353 人、令和3年度 1,636 人、令和4年度9月まで 1,174 人

- ・青楓美術館の入館者数の推移

平成30年度 1,779 人、令和3年度 520 人、令和4年度9月まで 468 人

②施設や設備の老朽化

③ICT社会への対応

《課題に対応していくための取組》

【ICT社会の中で春日居郷土館がやりたいこと】

- ・過去の出来事パネル（通史パネル）の設置
- ・市の学芸員によるリモート授業の実施
- ・他の博物館と学校を結んだりリモート授業の仲介（㊦郷土館で、㊩教室で）
- ・QRコードによる学習資料へのアクセス（一部実施）
⇒写真、三次元データ、空撮画像、説明動画など興味がわくような素材へアクセス

【学校連携のために必要な環境整備】

- ①展示室、収蔵庫の改修
 - ・絵画収蔵スペースの確保と整備
 - ・展示室の稼働壁の設置
 - ・展示室等の照明設備の改修
- ②春日居郷土館のインターネット環境の充実
 - ・学校（教室）と同じインターネット環境の整備
- ③学芸員の育成
 - ・学芸員の専門研修への積極的参加
- ④図書館との連携強化
 - ・図書館司書と学芸員の相互利用の促進（伝え方の苦手分野を補い合う）